

支援機器相談シート

相談内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自立活動を主とする教育課程で、主に車椅子で生活している。 ・ 簡単な言葉の意味を理解している様子が見られる。活動内容を説明すると気持ちが落ち着く。 「〇〇した後は、電車の動画を見ようね」→苦手な活動にも根気よく取り組む。 ・ 左手を使った活動に意欲的で、物をつかんだり、持ったまま動かしたりすることができる。積み木などを単純に置く活動は得意だが、差し込む、引っ掛けるなどの活動は苦手である。ペンを持ったまま動かすことができるが、ペンが横向きになり、ペン先を立てたまま動かすことが難しい。ペンよりも筆だと、先を意識している様子が見られた。 →文字を書くなどの活動のときに、ペン先を立てたまま動かすよい方法や支援具があれば知りたい。
------	--



相談結果	<p>○書く活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前腕が回内してしまい、ペン先が倒れてしまう。 →手首は柔軟であると同時に、不安定さがある。 ・ ペンで書くことを目的とし、練習として筆を使っての活動をするときもある。 ・ 食事のときにも、手首を返して食べることはできていない。 ・ ペン先を見て書くことを意識するよう促している。 →目線がペン先にあるときは、ペンを立てて書くことができる。 →正しい持ち方をすることで、ペン先を見やすくすることにつながる。 ・ ペンや筆を持つときは、手のひら全体で握る。(写真①) →マウス型の持ち手にペンが着けられるペンホルダー(写真②)を使い、ペン自体を安定させるものもある。
------	--



写真①



写真②



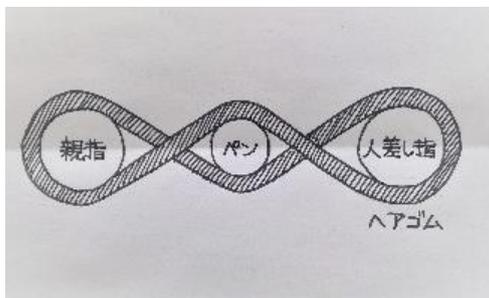
写真③ (ペンホルダー)

→ヘアゴムで簡易的なペンホルダーを作る方法もある。(写真④、図①)

→本人はやりにくい様子。



写真④



図①

→ペンサポート（写真⑤）を使い、T字を作る方法もある。（写真⑥）
→ファーストタッチは良好。練習していけばよいかもしれない。



写真⑤（ペンサポート）



写真⑥

- ・食事のときは、食べるという目的があり、見通しがもつことができるが、書く活動にどれだけ興味を示すかがポイント。
 - ・テーブルの位置が高く、手首が動かしにくい可能性がある。
- 書く活動のときだけでも、テーブルの位置を下げることで、手首の可動域を大きくすることを試してみるのもよいのではないかな。

本人が持ちやすい握り方から始めるのがよいが、紹介したような支援具を使って、正しい持ち方で自然にペンが立つように誘導していくのがよい。手や手首を支えて活動するのではなく、ペンを少し支える支援の仕方がよい。

[引用元]

ペンホルダー（写真③）

https://www7.techno-aids.or.jp/jijogu/goods_detail.php?index=24

ペンサポート（写真⑤）

<https://www.imagecraftjapan.com/products?categories=150>